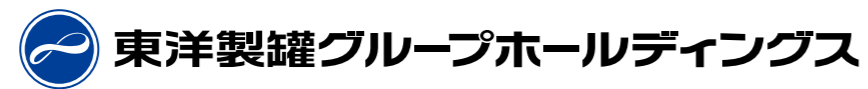


CSR 2014

東洋製罐グループ
CSR レポート 2014

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT



発行・連絡先 CSR室

〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング

Tel. 03-4514-2303

2014年9月発行





ひらき、心ときめく

東洋製罐グループは、事業活動を通して社会課題の解決に貢献する。

グループ全従業員は、日々の業務が社会への責任を担っていると認識し、活動する。

これが、東洋製罐グループのめざす CSR 経営です。

「包みのテクノロジー」をベースに、「ひらき、心ときめく」価値を創造し、

持続可能な社会の発展に貢献する企業をめざします。

編集方針

東洋製罐グループでは、持株会社体制のもとに、CSR経営をベースとしたグループ経営を推進しています。

本レポートはステークホルダーの皆さまへ東洋製罐グループのCSRに対する考え方や活動をわかりやすくお伝えすることを旨として作成しました。

東洋製罐グループは、ステークホルダーの皆さまとの誠実な対話とそこから始める行動をCSRの基本姿勢としています。皆さまからのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。また、本冊子に掲載されていない情報については、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.tskg-hd.com/csr/>

基本報告

報告書の対象範囲

東洋製罐グループホールディングスを含む

国内・海外グループ会社

対象期間 2013年4月1日～2014年7月31日

数値データ 2013年4月1日～2014年3月31日

発行

2014年9月 (次回2015年9月発行予定)

参考にしたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

各事業会社の詳しい活動については、下記をご覧ください。

東洋製罐株式会社：サステナビリティレポート

<http://www.toyo-seikan.co.jp/eco/>

東洋鋼板株式会社：CSR

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/csr/index.html>

東洋ガラス株式会社：環境・社会報告書

<http://www.toyo-glass.co.jp/environment/report.html>

東洋興業株式会社：環境レポート

http://www.tokan.co.jp/environment/environment_report.html

日本クロージャー株式会社：環境・社会報告書

http://www.ncc-caps.co.jp/corporation/eco_report.html

東洋マテリアル・テクノロジー株式会社：環境報告書

<http://www.tomatec.co.jp/environment/index.html>

東洋エアゾール工業株式会社：環境について

<http://www.toyoa.co.jp/environment/>

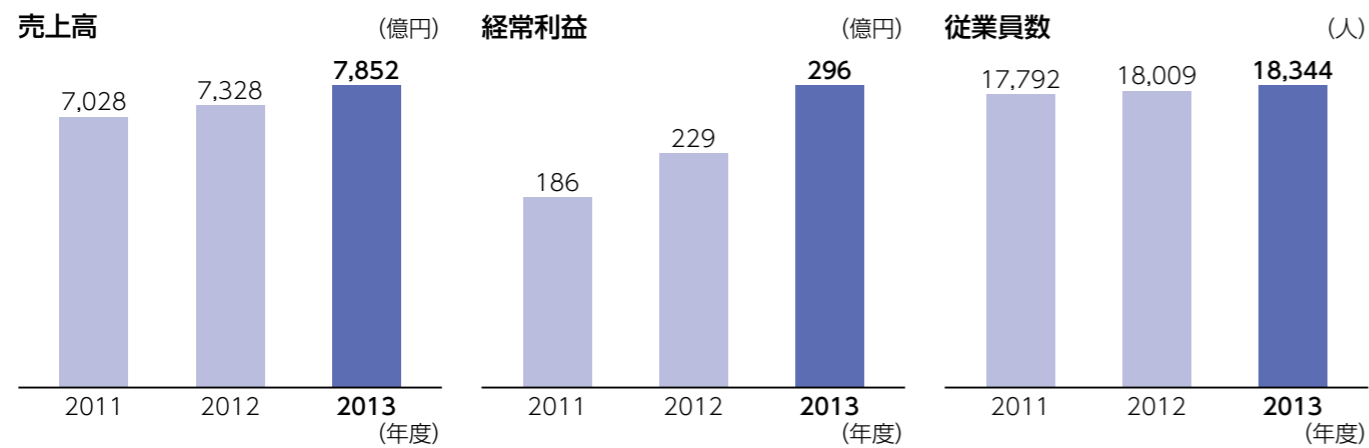
目次

コーポレートメッセージ	2
編集方針・基本報告・目次	3
会社概要	4
事業内容	5
東洋製罐グループ関係会社	6
トップメッセージ(読者の皆さまへ)	8
グループ会社トップメッセージ	10
特集1 容器文化ミュージアム	
「ひらき、心ときめく」包みのテクノロジーを 皆さまに伝えたい	12
特集2 東洋鋼板創立80周年	
鉄の常識を超えた新しい価値の創造を目指して…	14
グループトピックス	16
マネジメント	18
東洋製罐グループのCSR経営	
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス	
リスクマネジメント	
ステークホルダーとのかかわり	23
お客さまとのかかわり	
お取引先とのかかわり	
株主・投資家とのかかわり	
従業員とのかかわり	
地域社会とのかかわり	
地球環境とのかかわり	

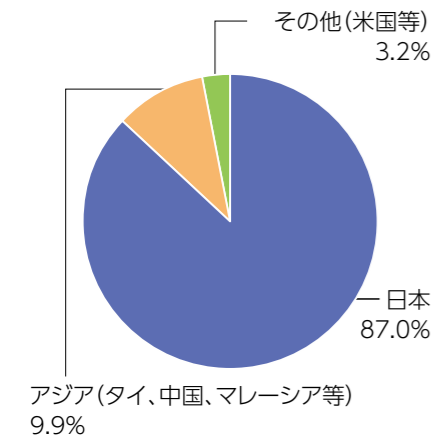
東洋製罐グループホールディングス株式会社

創 立 1917年(大正6年)6月25日
代 表 者 代表取締役社長 中井隆夫
資 本 金 110億9,460万円
本 社 〒141-8627 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング
従業員数 392名(連結18,344名) 平成26年3月31日現在
事業概要 包装容器関連事業、鋼板関連事業、機能材料関連事業、不動産関連事業、その他

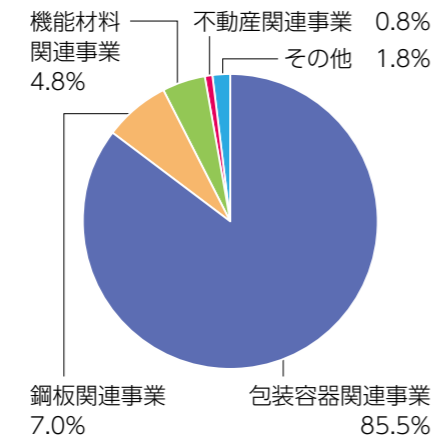
財務データ(連結)



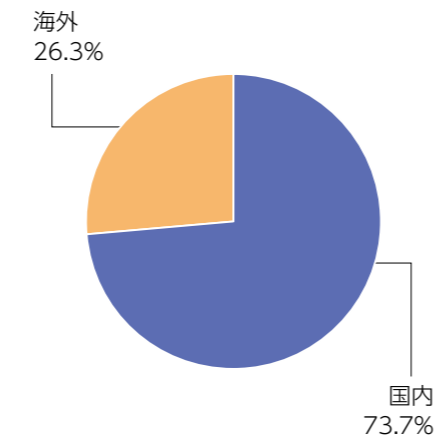
所在地別セグメント(売上高)



事業種別セグメント(売上高)



所在地別セグメント(従業員)



包装容器事業

缶詰用空缶やプラスチック製容器をはじめ、キャップ・ガラスびん・紙製容器・エアゾール製品等、日常生活を支える各種包装容器の製造販売を中心に事業を展開しています。



鋼板関連事業

缶用材料をはじめ、電気・電子部品用材料、自動車・産業機械部品用材料、建築・家電用材料等、暮らしのあらゆる場面で活躍する各種鋼板材料の製造販売を中心に事業を展開しています。



機能材料関連事業

磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルム・塗薬・微量元素肥料・顔料・ゲルコート等、多種多様な機能を備えた材料の製造販売を中心に事業を展開しています。



機械設備事業

容器製造用設備・充填巻締設備をはじめとする包装容器関連機械設備等の製造販売を中心に事業を展開しています。



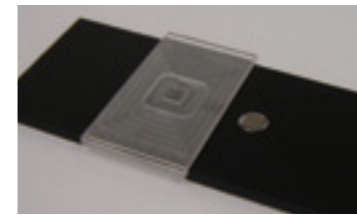
物流事業

主にグループ会社向け貨物自動車運送業や倉庫業等の事業を展開しています。



その他

硬質合金・機械器具・農業用資材製品等の製造販売、石油製品等の販売、損害保険代理業および不動産管理業等の事業を展開しています。



新規事業

保有するコア技術を活用し、IT・エネルギー・ライフサイエンス・ナノテクノロジー等の新たな分野へ事業領域を拡大しています。

●東洋製罐グループホールディングス株式会社

本社
総合研究所
ホーチミン駐在事務所(ベトナム)
イスタンブール駐在事務所(トルコ)

●東洋製罐株式会社

各種空缶・容器・充填設備の製造・販売

●本州製罐株式会社

18リットル缶、缶詰用空缶、美術缶の製造・販売

●日本ナショナル製罐株式会社

飲料用空缶の製造・販売

●琉球製罐株式会社

缶詰用空缶、プラスチックボトルの製造・販売

●ベトリファイナテクノロジー株式会社

PETボトルリサイクル事業

●東洋製版株式会社

金属およびフィルム印刷版の製造

●福岡パッキング株式会社

金属・ガラスおよびプラスチック容器用シーリング剤(密封剤)の製造・販売

●ティーエムパック株式会社

飲料用PETボトル製品の製造・販売

●東洋食品機械株式会社

製缶機械、缶・びん詰め機械、包装機械、食品加工機械の製造・販売

●東洋メビウス株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業ほか

■株式会社ジャパンボトルドウォーター

宅配水用容器とサーバーの製造・販売

■株式会社T&Tエナテック

リチウムイオン二次電池を主とする電池用外装材の製造・販売

■株式会社リンフォテック

自己リンパ球療法支援、同医薬品化

●Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd.(タイ)

2ピース缶・アルミ蓋の製造・販売

●Next Can Innovation Co., Ltd.(タイ)

2ピース缶の製造・販売

●Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

プラスチック製品の製造・販売、飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業、技術支援センター、グループ会社へのアドミニ業務

●Kanagata (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

プラスチック製品用金型の製造・販売

●Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

容器用樹脂被覆アルミ材の製造・販売

●Toyo Mebius Logistics (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

貨物自動車運送業

●Malaysia Packaging Industry Berhad(マレーシア)

軟包装材の製造・販売

●広州東罐商貿有限公司(中国)

缶、プラスチック容器の販売

●東罐(広州)高科技容器有限公司(中国)

2ピース缶、アルミ蓋の製造・販売

●東洋飲料(常熟)有限公司(中国)

飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業

●東罐斯多里機械(上海)有限公司(中国)

包装容器製造用機械器具、缶・びん詰め製造用機械器具、その他機械器具の製造・販売

●Can Machinery Holdings, Inc.(アメリカ)

持株会社

●Stolle Holdings, Inc.(アメリカ)

持株会社

●Stolle Machinery Company, LLC(アメリカ)

製缶・製蓋機械の開発・製造・販売・各種サービス

●Stolle Europe Ltd.(イギリス)

製缶・製蓋機械の開発・販売・各種サービス

●Stolle Machinery do Brasil Industria e Comercio Equipamentos Ltda.(ブラジル)

製缶・製蓋機械の製造・販売・各種サービス

●Stolle Asia Pacific Co., Ltd.(ベトナム)

製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

■Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd.(ベトナム)

アルミ2ピース缶の製造・販売

●東洋鋼鋳株式会社

ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板の製造・販売
磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルム等の製造・販売

●鋼鋳商事株式会社

鋼板類とその加工品の販売等

●鋼鋳工業株式会社

帯鋼、結束機等機械器具、硬質合金等の製造・販売および磁気ディスク用アルミ基板の製造

●KYテクノロジー株式会社

建材製品および物流器材の製造・販売

■東洋パックス株式会社

梱包資材の製造・販売、截断、検定、包装作業請負

■共同海運株式会社

内航運送業、貨物利用運送業、通関業、代理店業

■下松運輸株式会社

貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業および倉庫業

■東洋パートナー株式会社

健保会館等福利厚生業務の請負および労働者派遣事業

●TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD.(マレーシア)

磁気ディスク用アルミ基板の製造・販売

■上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)

鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機等の販売および付帯サービスの提供

■湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)

鋼板、アルミ、銅およびステンレス等の基材に表面処理を施した製品の研究、開発、製造および販売並びにこれらに付帯する一切の業務

■江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)

缶用ラミネート鋼板の製造

■韓国鋼鋳工業株式会社(韓国)

自動結束装置、硬質合金等の製造・販売および付帯サービスの提供

■Tosyalı Toyo Steel CO. INC.(トルコ)

冷延鋼板および表面処理鋼板の製造・販売(表面処理鋼板製造工場の建設を推進中)

●東洋ガラス株式会社

ガラスびんの製造・販売

●東洋佐々木ガラス株式会社

ガラス製ハウスウエア製品の製造・販売

●東洋ガラス機械株式会社

ガラス・プラスチック容器用金型、機械の製造・販売

●東洋ガラス物流株式会社

貨物利用運送業、各種構内作業請負

●東北砂株式会社

砂の製造・販売

●東硝株式会社

ガラス製品の販売

●Toyo Glass Mold (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

ガラス製品用金型の製造・販売

●東罐興業株式会社

紙コップ製品、一般樹脂製品の製造・販売

●日本トーカンパッケージ株式会社

段ボール製品・紙器製品の製造・販売

●東洋ユニコン株式会社

ダンプラ製品の製造・販売

●東罐興産株式会社

農業用フィルムの製造・販売

●東罐高山株式会社

紙容器製品、紙蓋製品の製造・販売

●東罐ロジテック株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業

●株式会社尚山堂

紙器・台紙、紙スプーンの製造・販売

●株式会社ダック商事

紙容器製品、樹脂容器製品の企画・販売

●サンナップ株式会社

紙コップ・紙皿、紙ナプキンの販売

■株式会社タケウチハイパック

段ボール製品・紙器製品の製造・販売

■千里運輸株式会社

貨物自動車運送業

■志田紙工株式会社

合成樹脂製品の製造・販売

●東罐(常熟)高科技容器有限公司(中国)

プラスチック製品の製造・販売

●TAIYO PLASTIC CORPORATION OF THE PHILLIPINES (フィリピン)

プラスチック製品の製造・販売

●T.K.G. CORPORATION(フィリピン)

土地賃貸業

●日本クロージャー株式会社

金属キャップ・樹脂キャップの製造・販売

●新三協物流株式会社

貨物自動車運送業

●Crown Seal Public Co., Ltd.(タイ)

メタルキャップ・プラスチックキャップ・王冠の製造・販売

●日冠瓶蓋(常熟)有限公司(中国)

飲料PETボトル用プラスチックキャップの製造・販売

■NCC Europe GmbH(ドイツ)

飲料用キャップの製造・販売

●東罐マテリアル・テクノロジー株式会社

フリット製品、顔料およびゲルコート等の製造・販売

●多瑪得(上海)精細化工有限公司(中国)

無機顔料(複合酸化物顔料)の製造・販売

●多瑪得(廈門)精細化工有限公司(中国)

ほうろう、タイル、陶磁器用のフリット、釉薬、人造大理石用ガラスファイラーの製造・販売

●日龍発展有限公司(中国)

多瑪得(廈門)精細化工有限公司の持株会社

●太星発展有限公司(中国)

多瑪得(廈門)精細化工有限公司の輸出総代理店

●TOMATEC America, Inc.(アメリカ)

無機顔料、フリット等の輸入・販売

●PT. TOMATEC INDONESIA(インドネシア)

フリットおよび顔料の製造・販売

●東洋エアゾール工業株式会社

エアゾール製品・一般充填品の受託製造・販売

●Toyo Filling International Co., Ltd.(タイ)

エアゾール製品の受託製造・販売

■Toyo & Deutsche Aerosol GmbH(ドイツ)

エアゾール製品の製造・販売

●東罐商事株式会社

石油製品・PETボトルリサイクル商品の販売、製缶用鋼材の販売

●東罐共栄株式会社

損害保険代理業、生命保険代理業、不動産賃貸管理業、宅地建物取引業、旅行業

トップメッセージ(読者の皆さまへ)



受け継いでゆく志

2014年6月26日、金子俊治前社長の後任として、代表取締役社長に就任いたしました中井隆夫でございます。東洋製罐グループは、2013年に持株会社体制に移行しました。私は、東洋製罐株式会社に創業当時から受け継がれている精神「我社の目的は容器を通して、人類の幸福に貢献することにある」は、企業としてのすばらしい志だと思っています。東洋製罐グループの事業会社各社にも、それぞれ優れた社是がありますが、この志を永遠に追求し、実践しつづけることが、東洋製罐グループのCSRの原点だと考えています。この志を受け継ぎ、ステークホルダーの皆さまとともに企業価値の最大化に努めてまいりたいと思います。

幅広い分野でグローバルに、信頼される企業を目指して

2013年の国内経済は、金融政策の転換により株高や円安が進み、金融経済や輸出産業に明るさが戻りました。加えて、2020年のオリンピック東京招致成功等もあり、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方、グループを取り巻く市場では、エネルギー・原材料価格の高騰、国内外での競争の激化等、大変厳しい経営環境となっています。

2013年4月、グループ成長の中長期ビジョンである「Growing 2022」を策定し、「容器をコアとして周辺分野へ発展したグローバル企業への成長」を10年後の私たちの目指す姿として掲げ、その実現に向けて2013～2015年度までの第3次中期経営計画をスタートしました。

2013年度は、海外会社の販売が順調であったこと、磁気ディスク用アルミ基板等の機能材料の販売が堅調

に推移したこと等により、グループ第3次中期経営計画の1年目の目標を達成することができました。包装容器関連事業では、優れたガスバリア機能を有するPETボトル、開けやすいコンビーフ容器やキャップ、加飾に優れたガラスびん、断熱性エンボス紙コップ、エアゾール用染毛剤向け容器「DUAL」等、各事業会社より高付加価値製品を開発・提供しました。海外事業では積極的な投資を継続しており、ASEAN、中国、米国に続き、初めて欧州にも進出し、中期経営計画3年目の2015年には海外売上高比率を15%程度まで引き上げる道筋をつけました。ライフサイエンスを主体とする新規事業は、遺伝子カビ検査システム「GENOGATE」を上市し、衛生管理サービス企業に採用いただきました。

これからも、グループ連携を加速し、既存事業の収益力の強化を図るとともに、成長性の高い海外事業および新規事業への戦略的投資を積極的に推進してまいります。

2013年、グループ第三次中期経営計画とともに「グループCSR基本方針」を策定しました。2013年は、グループ各社におけるCSR推進体制を明確にするとともに従業員へのCSR啓発活動を進めました。引き続き、強固なグループCSR推進体制を構築しながら、世界に信頼される東洋製罐グループブランドの確立を目指してまいります。

事業活動を通して社会的課題を解決する

東洋製罐グループは、私たちがお届けする製品・システム・サービスによって、皆さまの日常生活を支える社会インフラの役目を担い、生活文化の向上に貢献してまいりました。その中で、1970年代の空き缶ポイ捨て問題に呼応して開始した「空き缶リサイクル活



動」や、90年代に上市し現在も進化を続ける水使用ゼロの環境配慮型製缶システム「TULC」の開発・販売、近年ではPETボトルの循環型利用を可能にした「PETボトルto PETボトル事業」等、社会的課題に応えるための事業を行ってまいりました。世界には、環境の持続可能性の確保、人権侵害の防止、飢餓撲滅、贈収賄の防止等人類の幸福のために取り組まなければならないたくさんの社会的課題があります。東洋製罐グループは、これからも、蓄積してきた技術・ノウハウを活かし、事業活動を通して社会的課題の解決を図り、社会とともに成長しつづけてまいります。

ステークホルダーの皆さまの変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

東洋製罐グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

中井隆夫

グループ会社トップメッセージ

東洋製罐株式会社

代表取締役社長 中山 伊知郎

私たち東洋製罐事業グループの“CSR経営”とは、江戸時代から伝わる「買い手よし」「世間よし」「売り手よし」のいわゆる「三方よし」の精神を日々実践することです。

この一年間、社内報やポスター等をはじめ機会あるごとに、啓発活動に取り組んできました。

しかし、まだまだこの精神が十分に浸透しているとは、いえません。本年も引き続き、CSRの啓発活動に取り組むとともに、グループ各社の創業精神や経営理

念に立ち返り、グループ各社が提供する製品・サービスをより良いものにし、お客さまにご満足いただけるようにしたいと思っています。そのためには、一人ひとりが現状に甘んじることなく、日々の仕事に誇りと使命感をいだき、常により高い目標を目指し挑戦し続けることです。日々の仕事の質を高めることで、CSR経営を実践していきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

東洋鋼鈹株式会社

代表取締役社長 隅田 博彦

2013年度、私たちは新中期経営計画「TK WORKS Beginning」の目標を達成することで、ステークホルダーの皆さまに有益な価値を提供できるよう、社会変化のリスクに強い会社に変革すべく取り組んでいくことをお伝えしました。

中期経営計画初年度は、拡販やコスト削減をはじめとした取り組みに加え、国内経済に持ち直しの動きが見られる等の追い風も受け、当初の目標を上回る成績を収めることができました。また、2014年2月には、

鋼板関連事業の海外展開を本格化するための第一歩として、トルコ共和国における合弁工場の建設を決定いたしました。この決定は私たちにとって非常に重要なチャレンジになりますが、引き続き中期経営計画の諸施策に取り組む中で成功事例を数多く積み上げ、着実な成長を実現したいと考えています。

東洋鋼鈹は、2014年4月に創立80周年を迎えました。これからも常にお客さまに有益な価値を提供し、ステークホルダーの皆さま、そして社会に貢献してまいります。

東洋ガラス株式会社

代表取締役社長 清水 泰行

東洋ガラスは1888年、ガラス容器メーカーとして誕生して以来、「ガラスの持つ可能性を追求し、生活文化の向上に貢献する」ことを基本とし、ガラスびんから各種ガラス関連製品を製造・販売するメーカーへと成長してまいりました。今後も、次の5つの経営理念を掲げ、持続可能な社会の構築に向け責任を果たしてまいります。

- ①生活文化の向上に役立つ、使いやすく優れた各種ガラス製品を社会に提供する。
- ②時代の変化に対応する、周辺技術の展開と新製品の開発を行う。

- ③美しい地球環境を守り、資源の有効活用を積極的に推進する。
- ④良い環境と活力ある職場をつくり、福祉の充実をはかる。
- ⑤世界との交流を深め、相互の発展に寄与する。

この経営理念を基軸に、生活必需品であるガラスびんを安全・安心にお届けするとともに生活に潤いをお届けすることで、広く社会から信頼を得る企業を目指してまいります。

東罐興業株式会社

代表取締役社長 筒井 栄二

東罐興業は2013年度からスタートした中期経営計画の重点施策の一つにCSR経営を掲げています。包装容器事業をコアとして、常に社会のニーズと自然環境に調和した製品とシステムを創造し、生活文化の向上に貢献するという経営理念の実現こそが東罐興業グループが目指すCSRであり、日々の業務がCSR活動そのものであると位置づけています。日々の業務の重要性を知ってい

ただために、全従業員を対象にCSR啓発活動を実施し、CSR意識と質の向上に努めてまいりました。

企業を取り巻く環境は急激に変化しており、これまで以上に社会からの要請と期待は大きくなっています。消費者の安全・安心や環境に配慮した活動に取り組み、企業を取り巻くステークホルダーとの対話を通じて、その期待に応え、信頼を得る活動を展開しています。

日本クロージャー株式会社

代表取締役社長 辻広 康雄

日本クロージャーは、東洋製罐グループの中でクロージャー(フタ)を製造する役割を担っています。クロージャーは小さなものですが、容器を密封し、内容物を守るその役割は非常に大きなものです。皆さまの身の周りでも、たくさんのクロージャーがペットボトルやガラスびん、種々の容器に使用されています。

当社では、製品の軽量化によって原材料の使用量を減らし、環境負荷を少なくする等の取り組みを行って

います。他にも「紙パックから取り外しやすいキャップ」「ペットボトルから落ちないキャップ」等、世の中のニーズに合わせて様々な製品を開発してきました。

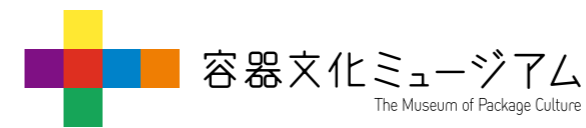
今後、企業に対する社会的要請は一層強まることが予想されます。東洋製罐グループCSR基本方針に則って事業活動を展開し、多様なステークホルダーからの信頼を獲得することによって、目標である「クロージャー業界で世界一へ」を実現したいと考えています。



写真左から 東洋製罐GHD社長 中井 隆夫 日本クロージャー社長 辻広 康雄 東洋ガラス社長 清水 泰行 東洋鋼鈹社長 隅田 博彦 東罐興業社長 筒井 栄二 東洋製罐社長 中山 伊知郎 東洋製罐GHD会長 金子 俊治

特集1 容器文化ミュージアム

「ひらき、心ときめく」包みのテクノロジーを皆さまに伝えたい



●容器文化ミュージアムの概要

〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング1階
【開館時間】平日9:30～16:30
【入場料】無料
【ホームページ】<http://www.package-museum.jp/>

いつの時代も人の暮らしを便利で豊かなものとするために、考え、作られ、利用されてきた容器包装。容器文化ミュージアムは、時代とともにその役割・機能を進化させてきた容器包装の文化情報を、多くのステークホルダーの方に発信し、さらに地域の豊かな都市環境の一翼を担う施設として2012年4月にオープンしました。



東洋製罐グループと地域社会の成長を目指して

東洋製罐グループは、2011年12月にグループ本社ビルを品川区東五反田に新設しました。本社ビルにふさわしい文化・情報の積極的な発信機能を持ちたいという当グループの思いと、品川区のまちづくりビジョン「ものづくり産業をリードする街」「地域産業と住宅との調和のとれた街」を具現化する施設を期待する地域社会の思いが重なり、容器文化ミュージアムの開設に至りました。東洋製罐グループの企業理念「『包む』技術を通じて社会に貢献する」を体現し、地域住民をはじめとする多様な人々が「明るく、学べる、親しみの持てる」交流の場として、容器文化ミュージアムは誕生しました。



インバーテッドボディメーカー

容器文化ミュージアムを象徴するモニュメントとして展示されている、「インバーテッドボディメーカー」。約100年前の自動製缶機です。東洋製罐グループの初期の製品は、このような機械によって作られていました。こちらは、国立科学博物館の「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録されています。

容器包装を「ひらく」

容器包装は、その名の通り「包んで装い」、中身を守っていますが、容器文化ミュージアムでは、身近で何気なく使っている容器の秘密や工夫を「ひらく」をコンセプトにご紹介しています。

ミュージアム内は、人と容器のかかわり、容器包装の役割、容器包装NOW！、環境、循環する容器包装、缶詰ラベルコレクション、人と容器の物語、のゾーンから構成されています。文明の誕生と容器のかかわりから、最新の容器包装まで、その歴史や技術・工夫を、実物の展示やアニメーション、QRコード読み取りによる説明モニターやゲーム等により、楽しみながら学ぶことができます。

夏休みイベントの開催(写真上段)

毎年8月には夏休みイベントを開催しています。容器を使った工作教室を実施し、子どもたちの自由研究をサポートしながら、「容器包装」への興味・関心を持っていただくことを目的としています。

●2013年夏休みイベント プログラム

(開催日：2013年8月21日・22日)

- 容器や容器素材を使った工作体験
- 容器に関する子ども向け動画の上映
- お絵かき段ボールハウス

近隣の学校の児童や従業員のご家族等、たくさんの方にご来場いただき、普段は物静かなオフィスビルが、子どもたちの楽しそうな声で包まれました。毎年大人気のお絵かき段ボールハウスは、表現力の豊かな小さな芸術家たちによって、個性的なお家に仕上がりました。

企画展の開催(写真下段)

ミュージアムに繰り返し足を運んでいただけるよう、年に2～3回の企画展を開催しています。容器の材料や容器に関連するテーマをピックアップし、特集して

います。2013年度は、2回の企画展を開催しました。

●段ボール企画展

とても身近で、軽くて強い、中身を守る能力に優れた段ボール。段ボールの原料となる紙の作り方から、軽くて強い構造の工夫、段ボールの意外な使われ方まで紹介しました。

●災害対策 容器と備蓄企画展

東日本大震災から3年となる2014年3月に開催しました。保存食・非常食・備蓄食の紹介のほか、緊急時に役立つ段ボール製の簡易トイレ等を展示しました。災害時に命をつなぐ、水や食料の保存に、容器が密接にかかわっていることをご紹介します。

多様な受入体制

館内は自由に見学できるほか、団体受入も行っています。未来の自分への手紙を缶詰に詰めた「タイムカプセル缶詰」作成等のワークショップを用意しており、ご好評いただいています。また、海外からのお客さまにも対応するため、展示やパンフレットは、日本語のほか、英語、中国語、タイ語を用意しています。

鉄の常識を超えた 新しい価値の創造を目指して

ずずをめっきした鋼板—ぶりき。

東洋鋼鋅は、日本における民間初のぶりきメーカーとして誕生し、本年で創立80周年を迎えました。

歴史を重ねる中で培ってきた圧延・表面処理・ラミネート等の独自の技術を発展させ、

鉄から非鉄、樹脂等の分野へと活躍の場を広げてきました。

私たちはこれからも果敢に挑戦を続け、永続的に有益な価値を提供し続ける企業集団を目指してまいります。

東洋鋼鋅グループブランド「TK WORKS」

東洋鋼鋅グループは、昨年4月から新ブランド「TK WORKS」を採用し、基盤強化と革新的な挑戦を通じて、ビジョンの再構築を着々と進めています。

また、「Beyond Steel」をスローガンに掲げ、未来への飛躍を期して決意も新たに「ありたい姿」の実現に邁進しています。



1934年 ● 創業
1935年 ● ぶりき
生産開始

1961年 ● 「ティンフリースチール」誕生
ぶりきに代わる製缶用材料として、世界で初めて商品化に成功
1967年 ● 「電気亜鉛めっき鋼板」誕生
鉄に対し優れた防錆効果を持った亜鉛をもとに、さらに耐食性を向上

2001年 ● 「容器用機能フィルム ファインキャストフィルム」誕生 ラミネートフィルムを内製化
2004年 ● 「バイオチップ用途基板 DNAチップ」誕生 世界で初めて開発した気相合成法
2007年 ● 「光学用機能フィルム」誕生 缶用、建材用途フィルムの製膜技術をもとに開発
2007年 ● 「銀鏡めっき金属板 ミラーコートK」誕生 金属板への銀鏡めっき処理を施した、高反射の鏡面材料
2009～2010年 ● 中国子会社設立 鋼板関連商品の拡販等



1958年 ● 「冷延鋼板」誕生
ブラウン管テレビのシャドウマスク材(2013年生産終了)として採用される
1959年 ● 「樹脂化粧鋼板」誕生
塩ビを亜鉛めっき鋼板に積層、実用化

1985年 ● 「ラミネート鋼板」誕生
環境にやさしい素材、フィルムラミネート鋼板
● 「磁気ディスク用アルミ基板」誕生
当社の研磨およびめっき処理技術を、他素材であるアルミに応用
1986年 ● 「ニッケルめっき鋼板」誕生
電池分野の需要拡大を見越し、圧延、熱処理、表面処理技術を活用した素材を開発

1997年 ● 「高性能異種金属積層材 ファインクラッド」誕生
● マレーシアにTOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD. 設立
磁気ディスク用アルミ基板の海外生産

2013年 ● グループブランド「TK WORKS」を採用
2014年 ● トルコ共和国に表面処理鋼板製造工場建設を決定



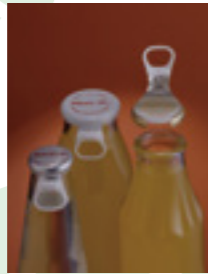
東洋製罐グループブランドを世界へ

2014年、東洋製罐グループは、初めて欧州に生産拠点を進出させました。
ASEAN・中国から欧米へ、東洋製罐グループは広がります。

NCC Europe GmbHの設立(ドイツ)

2014年1月15日、ドイツ テューリンゲン州に飲料用キャップの製造・販売を行う合弁会社を設立しました。

びん飲料が主流の欧州にて、びん用キャップ「マキシ-P」の現地生産を行います。



マキシ-P

Tosyalı Toyo Steel CO. INC.の 新工場設立決定(トルコ)

経済発展の著しいトルコ共和国に、トサルホールディングと東洋鋼鋳の合弁会社の表面処理鋼板製造工場を建設することを決定しました。2016年の稼働開始を予定しています。

東洋鋼鋳はこれまで国内の工場(山口県下松市)を主要な生産拠点としてきましたが、本工場建設を鋼板関連事業のグローバル展開の足がかりとし、海外事業を積極的に推進していきます。



左：トサルホールディング
ファット社長
右：東洋鋼鋳 田中会長

Toyo & Deutsche Aerosol GmbHの設立(ドイツ)

2014年4月、ドイツ ミュンヘン郊外にエアゾール製品の受託充填を行う合弁会社を設立しました。

日本の約10倍のエアゾール製品を使用している欧州、米国向けに、ワンプッシュで同時に2つの中身が取り出せる新二重構造容器「DUAL」の製造・販売を行います。



工場全景

DUAL

PT Indonesia Caps and Closuresの設立 (インドネシア)

2014年8月、インドネシア 西ジャワ州ブカシ県にプラスチックキャップの製造・販売を行う合弁会社を設立しました。

近年急速に市場規模が拡大しているインドネシアの飲料市場発展に寄与することを目指しています。



PT. TOMATEC INDONESIA新工場の竣工 (インドネシア)

2014年3月、インドネシア 東ジャワ州に、東罐マテリアル・テクノロジー子会社の新工場が竣工しました。

東南アジア、欧米、日本向けに、ほうろう製品の原料となるフリットや、プラスチック・塗料の原料となる顔料の製造・販売を行います。



工場全景

2013年度 東洋製罐グループの受賞製品のご紹介

東洋製罐グループの各社が開発した容器包装製品は、国内外から高い評価を受けました。

2013年度の受賞製品は、使いやすさの向上、さらなる環境負荷の軽減を目指した製品が多く見られました。持株会社制へ移行して1年。今後は、グループ会社間の結びつきをさらに強めることで相乗効果を発揮し、これまで以上にお客様のニーズに合った容器をご提案できるように容器開発を行ってまいります。

※受賞作品の一覧はウェブサイトをご覧ください。

- ワールドスターコンテスト ワールドスター賞
- 日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞
- 木下賞(改善合理化部門)
「長期保存可能な樹脂カップ詰めコンビーフ」
受賞者：東洋製罐
株式会社明治屋殿・ホリカフーズ株式会社殿と共同受賞



受賞製品は、コンビーフ缶詰伝統の形状を踏襲しつつ、新たな機能を備えた容器です。缶切り不要のフィルム蓋を使用し容易で安全な開封が可能。容器ごと電子レンジで加熱できる利便性を備えます。酸素を通しにくい素材と遮光性の高い4層構造を採用し、賞味期限は缶と同じ3年です。

また「グッドデザイン賞」を、カップのデザインを担当した東洋製罐グループホールディングスが受賞しました。

日本パッケージングコンテスト受賞製品

アクセシブルデザイン包装賞 絞り出しやすいボトル

東罐興業(キューピー株式会社殿と共同受賞)

ボトルの肩部/口部の薄肉化で押し潰しやすくし、肩部に凹み形状を採用して最後まで絞り出しやすくなった容器を開発しました。



デザイン、海外コンテスト受賞製品

PARIS AEROSOL & DISPENSING 8th AWARD (仏)

DUAL・東洋エアゾール工業

2つの中身がワンプッシュで同時に取り出せる、世界初のエアゾールシステムです。



受賞トロフィー DUAL

飲料包装部門賞 ワンタッチで組み上がる仕切材

日本トーカーパッケージ(株式会社エスサーフ殿と共同受賞)

1枚の段ボールのみで、5本のびんをワンタッチで仕切ることができる仕切材を開発しました。



IF(アイエフ)デザインアワード(独) YONEJU CONFITURE・

東洋製罐グループホールディングス
重ねられるスタイリッシュなデザインが評価された、東洋ガラス製びん商品です。



各賞の説明

【日本パッケージングコンテスト】公益社団法人日本包装技術協会主催 デザインからロジスティクスに至るまでの包装の優秀製品群を表彰
【ワールドスター賞】世界包装機構主催 日本パッケージングコンテスト入賞製品にワールドスターコンテストへの出品資格が与えられる
【木下賞】公益社団法人日本包装技術協会主催 ①包装の研究・開発、②包装の改善・合理化、③包装の新規分野創出に対する顕著な業績への表彰
【グッドデザイン賞】公益財団法人日本デザイン振興会主催 工業製品やビジネスモデル等、有形無形を問わず、人によって生み出されるものや活動を対象に表彰
【PARIS AEROSOL&DISPENSING 8th AWARD】ORIEX COMMUNICATION主催 エアゾールの技術革新と吐出システム包装の発展のために開催されている賞
【IF(アイエフ)デザインアワード】インダストリー・フォーラム・デザイン・ハノーバー(IF)主催 世界有数のデザイン賞のひとつ。毎年全世界を対象に優れた工業製品を選定

東洋製罐グループのCSR経営

東洋製罐グループは、包装容器製造をコアとする事業を通して社会へ貢献してきました。私たちは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづける」をグループCSR経営のビジョンに掲げ、全てのステークホルダーに向き合いながら、「世界に信頼される東洋製罐グループブランド」の確立を目指してまいります。

東洋製罐グループ経営ビジョン

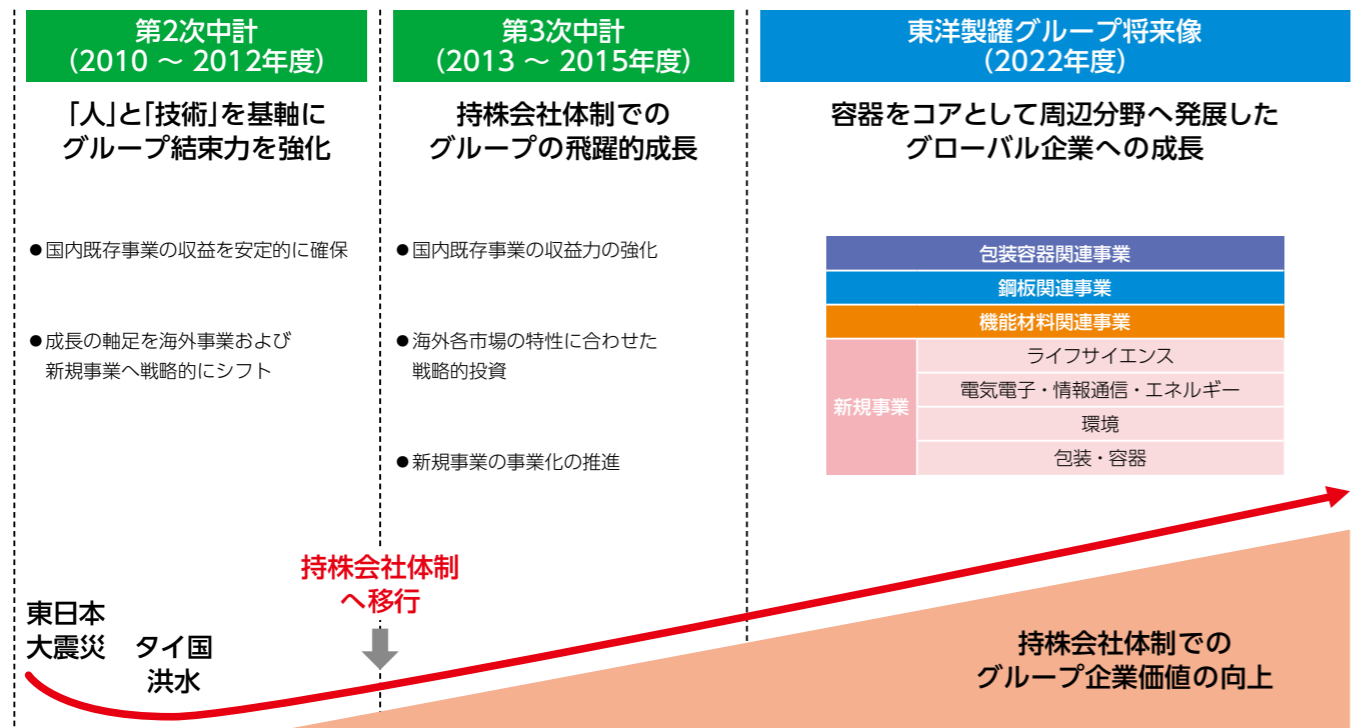


「包みのテクノロジー」を基軸として、人類の幸福繁栄に貢献する世界の先進プロフェッショナル企業を目指します

1. 生産と消費の橋渡し機能を持つ包装容器の無限の可能性を追求します
2. 「生産・充填包装・流通・消費・回収再生」に亘って環境を更に重視したソリューション企業グループを確立します
3. 他社の追随を許さない技術立社を目指します

東洋製罐グループ中長期成長ビジョン

東洋製罐グループの10年後の成長ビジョンとして「Growing 2022」を制定し、その実現に向けて2013～2015年度までの第3次中期経営計画をスタートしました。



東洋製罐根本方針

1933年(昭和8年)、創業者高碓達之助は「東洋製罐の使命」という小冊子の中で、創業の理念を根本方針として明文化し、株主、従業員、業界関係者に配布しました。以来、東洋製罐グループは、この根本方針のもとに私たちの使命を果たしてきました。東洋製罐グループのCSRの原点がここにあります。

- 一、我社の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。
- 二、事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。
- 三、自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

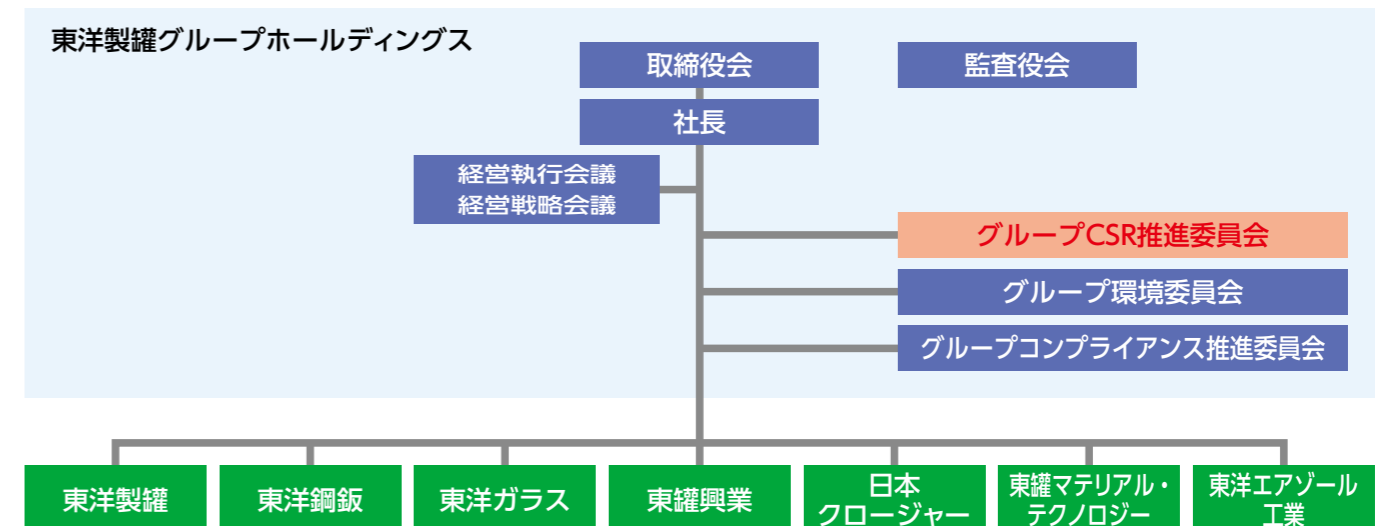
グループCSR基本方針

東洋製罐グループのCSRとは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづけること」です。東洋製罐グループで働く一人ひとりが、CSR精神を理解し、全てのステークホルダーに対応します。

全てのステークホルダー	全ての人の基本的人権と多様性を尊重し、誠実に対話し、行動します。
お客さま	お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。
お取引先	常に高い倫理感を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。
株主・投資家	企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。
従業員	安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。
地域社会	地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。
地球環境	地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

グループCSR推進体制図

東洋製罐グループのCSR活動全体を統括するために、グループCSR推進委員会を設置しました。同委員会は、東洋製罐グループホールディングス社長を委員長とし、ホールディングス社の役員および各事業会社社長を委員として構成します。



コーポレート・ガバナンス

誠実で公正な事業を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

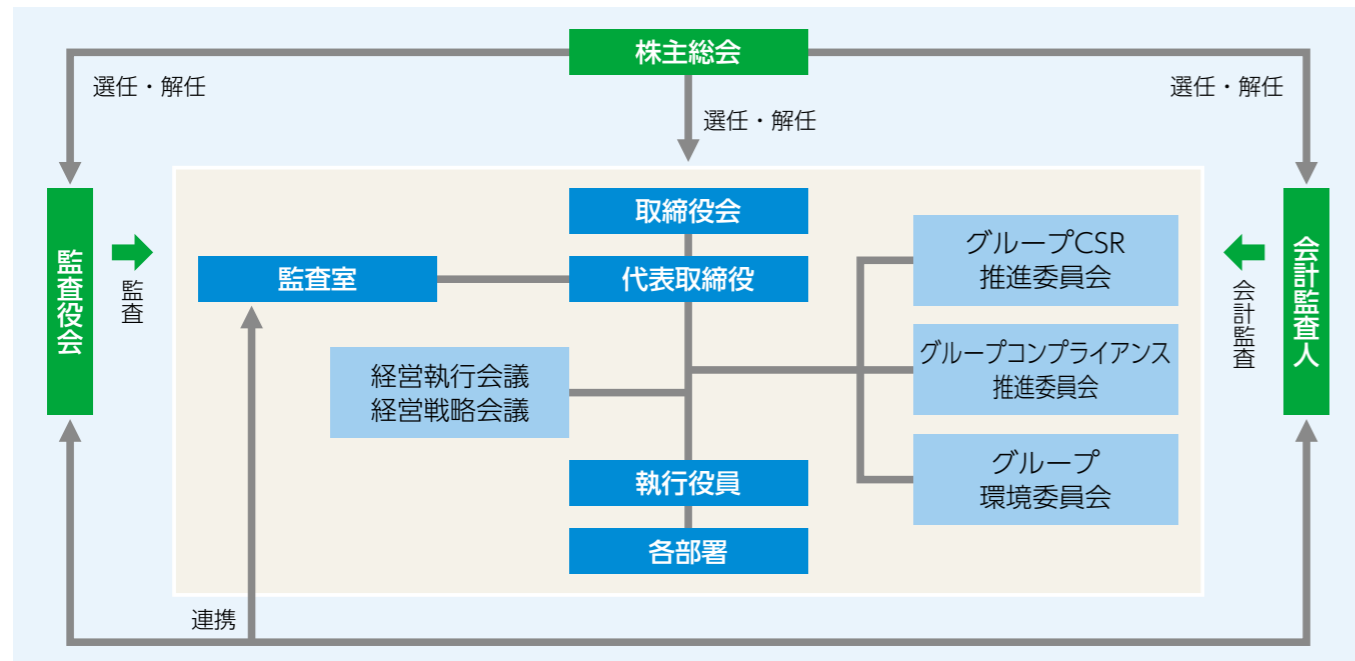
東洋製罐グループホールディングスは、創業以来の根本精神のもと、企業活動を通じて社会に貢献しつつ、企業価値の向上を図り、新たな発展と進化を続けるために、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の重要課題であると位置づけ、継続的に取り組んでいます。

企業統治の体制

当社の取締役会は取締役8名で構成されており、うち3名が社外取締役となっています。取締役会は原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催され、経営に関する重要事項等を決定しています。取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を機動的に構築するために、取締役の任期は1年としています。

また、当社は監査役制度を採用し、監査役による取締役の職務遂行および当社の経営状況の監視を実施しています。監査役会は監査役5名で構成されており、うち3名が社外監査役となっています。監査役会は、

コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス

社会の信頼に応えるために、東洋製罐グループ全体でコンプライアンス推進体制をととのえています。

グループコンプライアンス推進体制

東洋製罐グループは、東洋製罐グループホールディングスの会長を委員長とし、主要なグループ会社9社の社長を委員とするグループコンプライアンス推進委員会を設け、コンプライアンス意識の浸透・定着、違反行為の未然防止・早期発見、原因究明・是正・再発防止等を図るため、組織横断的、機動的にコンプライアンス活動を実施しています。また、東洋製罐グループの従業員等が、あらゆる企業活動において、「常に謙虚に、正しい行動」をとり、社会的な責任を果たしていく基本的な姿勢を示した東洋製罐グループ企業行動憲章を定め、グループ各社では本企業行動憲章に基づいた企業行動規準をそれぞれ定めています。

2013年度の主な活動実績

- **コンプライアンス推進月間活動の実施**
毎年10月を「コンプライアンス推進月間」と定め、東洋製罐グループが一丸となって推進活動に取り組んでいます。
 - グループコンプライアンス推進委員長メッセージ配信
 - スローガン「自由に率直に、なんでも意見を言い合える職場作りしよう!」
 - 推進月間PRポスター掲示・グループ各社社内報掲載
 - コンプライアンスクイズ実施・コンプライアンス標語募集



- **コンプライアンス研修**
コンプライアンス推進活動の一環として、次の研修会を実施しました。
 - グループコンプライアンス研修会「公正な取引を行うために企業行動の上で注意すべき点」
講師：小林・藤堂法律特許事務所 寺上泰照弁護士
 - グループ新任役員法務研修会「取締役・執行役員の地位と責任」
講師：河村法律事務所 豊泉貴太郎弁護士



- **倫理および法令遵守の誓約書提出**
東洋製罐グループ各社の役員は、毎年倫理および法令遵守に関する誓約書を提出しています。

- **グループコンプライアンス推進委員会・実務責任者会議の開催**
グループ各社におけるコンプライアンス推進活動状況の確認・情報共有、問題事例等を共有するため、グループコンプライアンス推進委員会および実務責任者会議をそれぞれ開催しました。
- **グループ各社における取り組み**
グループ各社においては、パワハラ・セクハラ、情報セキュリティ、独占禁止法、下請法等に関する勉強会開催・情報発信や、コンプライアンス担当役員による事業所巡回等を行いました。

2014年度の主な活動計画

東洋製罐グループは、2014年度の活動計画として次の項目を掲げています。

- **コンプライアンス上のリスク対策の取り組み**
 - 公正な取引を行うための施策の立案・実施
- **内部統制システムの運用状況の点検等**
- **コンプライアンス研修**
 - グループ新任役員法務研修会
 - グループコンプライアンス研修会
- **コンプライアンス推進月間活動**
- **倫理および法令遵守の誓約書提出**
- **コンプライアンス情報共有化**
 - 他社コンプライアンス事件・事件事例の配信
 - グループ各社コンプライアンス活動状況の配信
 - 法令情報の配信

社外相談窓口

東洋製罐グループでは、従業員等からのコンプライアンス違反行為に関する通報や相談に応じる窓口として、社外に「企業倫理ホットライン」および「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置するとともに、通報や相談に対する適正な処理の仕組みを定めています。なお、社外相談窓口のPRポスターを作成し、グループ各社の事業所内に掲示して周知しています。



リスクマネジメント

東洋製罐グループ各社の継続的な事業活動の実現、経営基盤の安定化のため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

リスク管理体制

東洋製罐グループは、「東洋製罐グループ リスク管理及び危機対策に関する基本方針」に基づきリスクマネジメントに取り組んでいます。

グループ全体のリスクマネジメントは、東洋製罐グループホールディングスの経営執行会議等を通して、状況を確認し、改善および予防措置を講じています。

グループ各社は、それぞれの推進体制のもとでリスク管理方針や基本計画の策定、会社全体のリスクマネジメント状況のとりまとめ等を行っています。

事業会社のリスクマネジメント組織

東洋製罐グループの事業会社各社では、リスクマネジメント組織を設置し、リスク発生の未然防止、顕在化したリスクからの事業活動の早期復旧に取り組んでいます。

- 東洋製罐：総合リスク対策委員会
- 東洋鋼鈑：リスク管理委員会
- 東洋ガラス：コンプライアンス推進委員会、情報セキュリティ委員会、環境委員会
- 東罐興業：リスク・コンプライアンス委員会
- 日本クロージャー：リスク・コンプライアンス委員会

事業会社の重要リスク

東洋製罐グループの事業会社各社では、業務執行の障害要因となりうる重要リスクを認識し、リスクマネジメント組織を中心に、対応しています。

会社名	想定される重要リスク
東洋製罐	コンプライアンス、品質、環境、債権回収、情報セキュリティ、自然災害・事故、カントリー
東洋鋼鈑	コンプライアンス、生産・品質・設備、調達・販売、安全・衛生・防災、環境、情報
東洋ガラス	コンプライアンス、自然災害・事故、環境・設備、品質、情報セキュリティ、債権回収
東罐興業	コンプライアンス、品質、環境、債権回収、情報セキュリティ、自然災害・事故、カントリー
日本クロージャー	コンプライアンス、自然災害・事故による重大な損失、情報セキュリティ、品質、環境

事業会社の取り組み

●カントリーリスク対策(東洋製罐)

●海外赴任者の赴任前教育の実施

東洋製罐では、海外赴任者全員に対して赴任国のカントリーリスクを事前に伝える教育を実施しています。外部の研修機関より、赴任国での実務経験が豊富な講師を招き、政治経済情勢・法律・文化・宗教・国民性・マナー・タブー・交通事情・治安・衛生性・感染症・医療機関・大使館・領事館等々、商業リスクと生活リスク両面での幅広い最新情報を伝え、本人が赴任国のリスクを事前に認識した上で、赴任後にはリスクマネジメントを発揮できる環境を整えています。

●自然災害・事故リスク対策(東罐興業)

●安否確認システムの導入

東罐興業グループは災害が発生したときに従業員の安否を把握することや風水害による人的・物的被害の状況を把握することは、大変重要であると考え、2013年度からグループ全体で安否確認システムを導入しました。従業員の安否確認や救援・救助の必要がある従業員への対応、また風水害が発生した際の被害状況等の収集に利用し、指示・連絡等に役立てます。

同様のシステムを、東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐、東洋鋼鈑、日本クロージャーでもすでに導入しています。

お客さまとのかかわり

お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。

東洋製罐グループは、長年にわたり蓄積した経験・技術・ノウハウを活用し、お客さまや社会のニーズに応える製品・システム・サービスの開発、提供に努めています。

品質保証体制

東洋製罐グループの品質保証体制は、グループ各社の事業活動において管理、運用しています。創業当時からあるべき姿として掲げてきた、品質優良、価格低廉、迅速な供給、の精神で、お客さまの信頼に応えるため、事業会社各社は、開発、調達、製造、販売、サービス全てのプロセスにおいて、常に時代に合った品質の確保・向上に取り組んでいます。



事業会社の品質マネジメント組織

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメント組織を設置し、品質管理のレベル向上に取り組んでいます。

- 東洋製罐：中央統合マネジメントシステム委員会
- 東洋鋼鈑：品質管理委員会
- 東洋ガラス：品質委員会
- 東罐興業：中央品質委員会
- 日本クロージャー：品質保証部

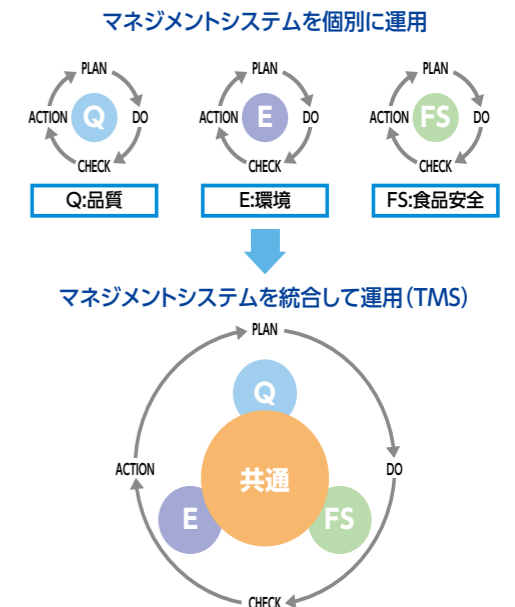
マネジメントシステムの構築

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメントシステム(ISO9000)を構築し、品質の確保、向上に取り組んでいます。また、食品向け容器の製造・販売を行う各社では、より安全、安心な製品の提供、フードチェーン全体におけるお客さま満足向上に向け、食品安全マネジメントシステム(FSSC22000)を順次構築しています。

事業会社の取り組み

●統合マネジメントシステム(TMS)の認証取得

東洋製罐では、2013年7月、品質マネジメントシステム(ISO9001)、環境マネジメントシステム(ISO14001)、食品安全マネジメントシステム(FSSC22000)について、複数サイト運用で、複合審査での認証を取得しました。マネジメントシステムの統合により、重複業務を省き、個別最適から全体最適へと視野を広げ、マネジメントシステムと事業活動とが融合した「活かしたシステム」で、お客さまに信頼されるものづくりを推進しています。



お客さまとのかかわり

技術開発の取り組み

東洋製罐グループでは、お客さまのさらなる満足と信頼を得るため、包装・容器市場の多様化するニーズに応える高付加価値の製品・技術・システム・サービスの研究・開発に努めています。さらに、長年にわたり蓄積した技術と先端技術を活用して、新たな市場の創造と新規事業の創出に取り組んでいます。

新規事業への取り組み

東洋製罐グループは、グループ各社が有する包装・容器分野のコア技術やその周辺技術、さらにはそれらを統合したソリューション力を基本に、各分野での最先端の技術開発を推進し、ライフサイエンス・医療、電気電子・情報通信・エネルギー、環境等の分野において次世代のコアと成り得る新規事業の創出を目指しています。

事業展開を推進している新規事業

CCS-Cell Culture System (高効率自動細胞培養システム)

がんの再発・進行の防止が期待できる活性化自己リンパ球療法を行っている東洋製罐グループのリンフォテックとともに、東洋製罐グループのプラスチック容器の材料にかかわる知見や生産技術を活かして開発を進めている細胞培養システムです。細胞に適した環境に保てる培養バッグや国産初の培地用ボトルの販売を開始しました。さらに、高効率な培養を可能にする自動細胞培養システムの開発を行っています。



培養バッグ 培地用ボトル

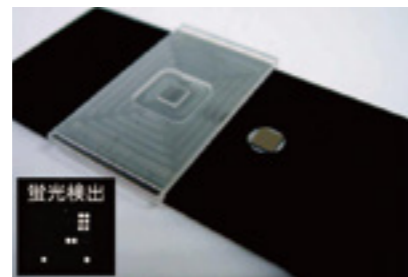


自動細胞培養システム

GENOGATE (DNAチップでの食品・環境検査)

銅板事業で培った表面処理技術を活かして開発したDNAチップです。検出プローブとして独自設計のDNAを高密度に固定し、食品工場や病院・農業現場・文化財施設等において人体や食品に悪影響をおよぼす約640種のカビを、1回の検査で性質ごとに特定することができます。

カビ受託検査のほか、カビ・食中毒菌の検査キットの開発も進めています。

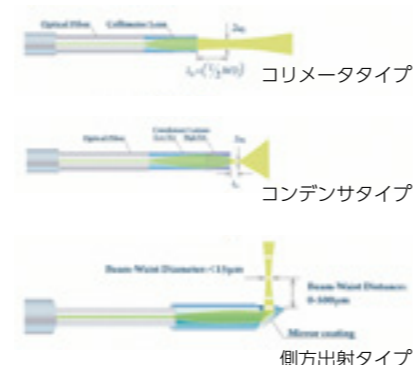


蛍光検出

シリカグリン® (屈折率分布型マイクロレンズ)

ガラス素材に関する知見と形成技術を活かして開発した、径方向に屈折率分布を持たせた石英系マイクログリンレンズ(超小型屈折率分布型レンズ)です。光ファイバと同じ極細径・同素材であるため、接着剤を使用せずに光ファイバ先端への融着が可能で、コレクター、コンデンサ、側方出射タイプがあります。

光通信やセンサ、メディカル等、次世代を担う分野で活躍する小粒な光学デバイスです。



コレクタタイプ

コンデンサタイプ

側方出射タイプ

お取引先とのかかわり

常に高い倫理感を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。

東洋製罐グループは、お取引先に対し、私たちの事業活動を支えてくださる重要なパートナーとして、常に謙虚に正しい取引を行うことを徹底しています。

グループ調達体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングス調達センターを中心に、グループ全体の調達業務基盤の整備、強化に取り組んでいます。「東洋製罐グループ資材購買基本方針」、「東洋製罐グループ資材購買行動方針」を定め、事業会社各社は、方針に基づきそれぞれ基本ルールを定め、運用しています。

東洋製罐グループ資材購買基本方針

1. 購買取引先と公平な取引を行う。
2. 遵法・倫理に基づき、公正な取引を行う。
3. サステナブル(持続可能)な社会の実現に貢献する。

東洋製罐グループ資材購買行動方針

グループ資材購買基本方針に基づき、資材購買担当者は次の行動方針に則って行動する。

1. 購買取引先と公平な取引を行う

- 広く世界に目を向け、最適な購買取引先を開拓し、競争環境の維持に努める。
- 国の内外を問わず、取引先には公平に機会を提供する。
- 購買取引先と良きパートナーシップを築き、長期的観点より相互理解と信頼関係の維持向上に努める。

2. 遵法・倫理に基づき、公正な取引を行う

- 定められた方針や手順に従って、常に公正な取引を行う。
- 関連する法律及び契約に従って誠実な業務を遂行する。
- 購買取引を通じて知り得た取引先の機密情報を守秘する。
- 第三者の知的財産権などの権利を侵害する購買取引を行わない。
- 不当な目的や手段による利益の追求を行わない。

3. サステナブル(持続可能)な社会の実現に貢献する

- 「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効活用」「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルな視点を持ち、それぞれの地域に根ざした購買活動を積極的に推進する。

TOPICS

下請法セミナーの開催

東洋ガラスでは、公正な取引の徹底のため、下請け取引業務にかかわる従業員および出向者ならびに子会社である東洋佐々木ガラスの従業員に対して、「下請代金支払遅延等防止法(通称:下請法)」のセミナーを開催しました。セミナーは、東洋製罐グループホールディングスの法務担当者が講師となり、下請法の基礎知識を中心に講義を受けました。本セミナーを通じて、下請法の遵守意識を高め、今後もお取引先との公平・公正なパートナーシップを築いてまいります。



株主・投資家とのかかわり

企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。

情報開示に対する方針

東洋製罐グループホールディングスでは、ディスクロージャーポリシー(情報開示方針)を定め、会社情報の適時適切な情報開示を行うことにより、株主・投資家の皆さまの信頼を得ることに努めています。

ディスクロージャーポリシー(情報開示方針)

基本方針

東洋製罐グループホールディングス株式会社は、株主・投資家の皆様への適時適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識するとともに、当社に対する信頼と適正な評価を得ることを目的として、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを通じ、会社情報を適時に、公平かつ正確に発信いたします。

IR活動の状況

当社は、財務状況・決算等に関する情報のリリース等のほか、積極的に会社情報の開示を行っています。また、マスコミ・アナリスト向けの決算説明会の開催や国内外の機関投資家との個別IRミーティング等を実施しており、当社グループの企業価値を理解していただくことに努めています。

2013年度の主な活動内容

対象者	IR活動
マスコミ アナリスト 国内機関投資家	●決算説明会(中間・期末) ●個別IRミーティング
海外機関投資家	●個別IRミーティング ●証券会社主催カンファレンス参加 ●インベスターズガイドの発行
株主	●報告書の発行(中間・期末)



カンファレンスの様子



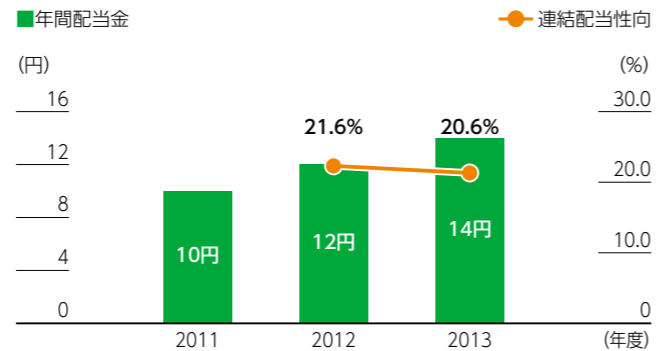
株主還元方針

当社は、グループ全体の業績を向上させることにより、株主還元・利益配分を将来にわたり着実に増加させる努力を継続します。

当社の株主還元・利益配分に関する方針は次の通りです。

- ①配当については、安定的かつ継続的に行うことを基本とし、「連結配当性向20%以上」を基準とします。
- ②内部留保については、中長期的な視点に立ち、積極的かつ機動的に海外事業・新規事業等の将来の成長分野への投資に充当します。
- ③自己株式の取得については、財政状況や株式市況に応じて柔軟に実施します。

配当金の推移



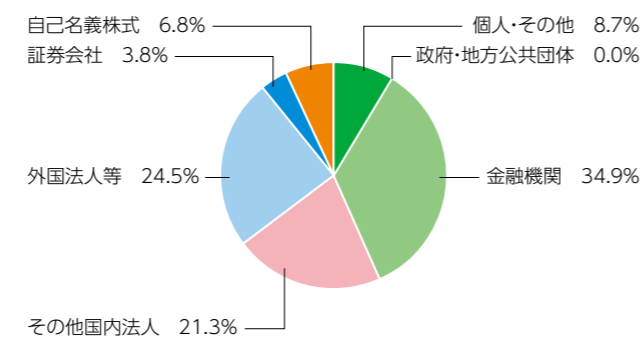
※2011年度は連結当期純損失のため連結配当性向の記載はありません

株式の状況

(2014年3月31日現在)

発行可能株式総数	450,000,000株
発行済株式総数	217,775,067株
単元株式数	100株
株主数	6,727名
上場取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード 5901)

株式の所有者別分布状況



従業員とのかかわり

安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくりまします。

東洋製罐グループが、人類の幸福繁栄に貢献しつづけるための原動力は「人」です。

私たちは常に従業員一人ひとりが、生き生きと誇りを持って働くことができる職場を目指しています。

人材についての考え方

東洋製罐グループは、会社の期待に応えられる人材を育てるために、能力開発の機会や実践の場を通して、従業員一人ひとりの成長を積極的に支援しています。

1. 変革意欲を持った社員に対して、積極的に活躍の機会を与え、成果に見合った評価・処遇を行います。失敗を恐れずに挑戦した姿勢・プロセスも評価します。
2. 積極的に教育研修、ローテーションの機会を与え、個人の成長が事業の成長へつながるしくみをつくりまします。
3. 採用、教育、配属、異動、日常業務の各場面において、多様な人材に対してより公平に活躍の機会を与え、グループの組織を越えて社員同士が連携することを支援します。

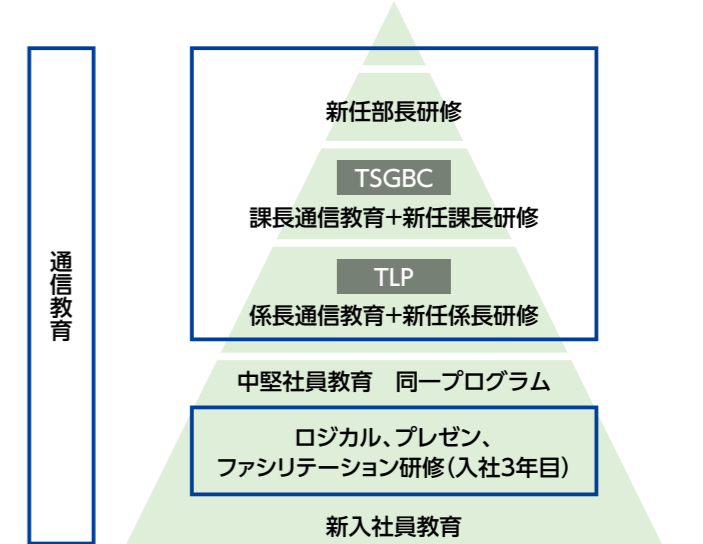
グループと連携した人材育成

東洋製罐グループは、教育プログラムの向上、グループ各社の連携強化のために、人材育成に関するグループ内交流を推進しています。グループ共通の集合教育として、次世代リーダー育成を目的とした選抜メンバーによる「TSGBC(東洋製罐グループビジネスカレッジ)」、MOT(技術と経営の融合)をベースとした技術系若手リーダー対象の「TLP(テクニカル・リーダーズ・プログラム)」、論理的な思考法を習得するための「ロジカルシンキング研修」、新任部長・新任課長・新任係長を対象とした「階層別研修」を実施しています。また、社員の自己啓発のサポートとして、通信教育の修了者には受講料を全額補助する制度を設けています。2013年度は主要グループ会社全体で延べ3,202件の申し込みがありました。

このようなグループで連携した人材育成を進めることで、個社を越えての一体感醸成、人的ネットワーク構築等を促し、「人」の基盤づくりに積極的に取り組んでいます。

グループ共通教育体制図

青枠はグループ合同実施



TLP最終報告会の様子

TSGBC受講者コメント



TSGBCを受講して

東洋ガラス
生産技術本部生産技術部
電気機器グループリーダー
原田 崇

私はガラスびんの品質向上を目的とした検査機の開発に従事しており、この検査機の検出精度を重点に置いて開発を進めてきました。今回、TSGBCを受講したことにより、広い視野で物事を考える力が身につく、検査機の検出精度を求めただけではなく、将来のガラスびん検査機のあるべき姿を考えた戦略的な開発を心掛けるようになりました。今後は日本国内だけではなく、世界のガラスびん産業の発展に寄与できる検査機の開発に取り組んでいきたいと考えています。

従業員とのかかわり

グローバル人材マネジメント

東洋製罐グループ85社中、39社が海外であり、今後、ますます増加する予定です。グローバルに活躍できる人材育成のため、従業員の語学学習のサポートや海外従業員の日本での研修受入等を行っています。

2014年4月現在、国内主要グループ会社の153人の従業員が、海外で活躍しています。

国別海外赴任者数

国名	赴任者数(人)
中国	57
タイ	61
マレーシア	8
ベトナム	3
アメリカ	4
トルコ	9
その他	11
計	153

【対象】東洋製罐、東洋鋼鋳、東洋ガラス、東罐興業、日本クロージャー、東罐マテリアル・テクノロジー、東洋エアゾール工業、東洋製罐グループホールディングス

安全・衛生活動

東洋製罐グループの安全・衛生活動は、主力事業会社を中心に、従業員が健康で安全に働ける職場づくりを目指し、取り組んでいます。

安全活動は、各社の委員会組織を中心に、労働災害の未然防止に取り組んでいます。また衛生活動は、産業医、看護職と連携し、メンタルヘルスを含む従業員の健康維持に努めています。

従業員の状況

(2014年4月1日現在)

社員数(人)	8,525	
男女別(人)	男性	7,480
	女性	1,045
世代別(人)	50代	2,007
	40代	2,291
	30代	2,081
	20代以下	2,146
平均年齢(歳)	38.8	

【対象】東洋製罐、東洋鋼鋳、東洋ガラス、東罐興業、日本クロージャー、東洋製罐グループホールディングス

地域社会とのかかわり

地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。

東洋製罐グループでは、地域社会の一員として、地域の皆さまとの交流を行っています。各事業所それぞれの特色を活かして、身近なところからできる社会貢献活動を実施しています。

展示会への出展

東洋製罐グループでは、2013年12月12日～14日に開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」に出展しました。グループ各社のエコ製品の展示、容器の作り方や使用後のリサイクルの説明、容器を使用した工作等を実施し、大人から子どもまで、約1万人が当グループブースに来場されました。



や従業員の家族等、約3,000人が来場され、工場見学や製品ショールーム、科学体験コーナー、ちびっ子広場、屋台等、様々な催しを楽しんでいただきました。

リサイクルデザインフォーラムへの出展

東洋ガラスでは、2013年10月27日に横浜市大さん橋ホールで開催された「リサイクルデザインフォーラム2013」に出展しました。企業・団体のブースのほか、環境問題をテーマとした小学生の絵日記が展示され、多くの家族連れでにぎわいました。東洋ガラスのブースでは軽量びんやエコロジーボトル等ガラスびんの3Rの展示を行い、親子でガラスびんに関する取り組みを理解していただく良い機会となりました。



近隣学校への学習協力

東洋製罐本社では、近隣の品川区立小中一貫校日野学園3年生の社会科の授業「高い場所から何が見えるか、その場所に行って冒険しよう」への学習協力として、大崎フォレストビルディング15階の会議室を提供しました。



紙コップ回収活動の実施

東罐興業では、イベント会場やスタジアム等で、会場内で使用した紙コップの回収活動を行っています。



回収した紙コップは、トイレットペーパーとして再生されています。

下松事業所開放デーの開催

東洋鋼鋳下松事業所では、2013年10月19日に下松事業所開放デーを開催しました。事業所近隣の方々



TOPICS

海外グループ会社従業員の研修受入

東罐興業では、2013年10月2～5日、東罐興業グループ会社の一つである中国の東罐(常熟)高科技容器有限公司(TCH)から来日した管理・製造の係長クラス13名を受け入れ、研修を実施しました。今回の研修は東罐興業のものづくりの思想を伝え、TCHで品質・生産性向上に活かせるよう開催されました。東罐興業の大阪工場や小牧工場のものづくりの現場を見学、本社で東罐興業の品質保証の考えについて講義を受け理解を深めていただきました。



容器文化ミュージアム前で



小牧工場見学の様子

東洋製罐グループ会社 看護職会議の開催

2014年6月6日、第2回目となる「東洋製罐グループ会社看護職会議」を開催しました。グループ各社の産業看護職職員が一堂に会し、各社の取り組みについての報告や、社内外の事例検討、国・学会の動向について情報交換を行いました。産業保健活動の連携、質の向上により、グループ会社全社員の健康保持増進を目指しています。



看護職会議の様子

地域社会とのかかわり

工場見学の受け入れ

日本クロージャー小牧工場では、小牧市の老人会有志による研修活動の一環として、2013年5月23日に工場見学の受け入れを実施しました。当日は20名を超える方々が参加され、工場や設備、製品に関する説明に聞き入っていました。



海外グループ会社の取り組み

タイ義足協会への支援

Bangkok Can Manufacturing (BCM) では、義足協会に対するボランティア活動をしています。使用済みのアルミ (タブ、キャップ、その他) を集め義足協会に寄付し、その寄付で義足が作られます。BCMは、アルミを集めるセンターとして、企業や学校等、様々な団体からのアルミを受け入れています。2013年は合計30,348kgのアルミが集まりました。(義足を1本作成するのに約1kgのアルミが必要と言われています。)

2012年にはBCMの継続的なボランティア活動が、



協会の代表を務めるシリントーン王女からの表彰を受けました。

1日で1,049kgも届けてくれた自転車協会の皆さま



シリントーン王女から表彰を受ける山田社長

事業所周辺の美化活動

東洋製罐グループの各事業所では、事業所の周辺を中心に地域の美化活動を実施しています。時には、他の企業や地域の皆さまと一緒に、地域の環境美化に貢献しています。



大崎フォレストビルディング地域環境美化活動
(東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐、東洋ガラス、東洋興業、日本クロージャー、日本トーカンパッケージ、本州製罐、東洋エアゾール工業、東洋商事、東洋共栄)



東洋製罐広島工場
沼田川
クリーンキャンペーン



東洋鋼鋳下松事業所
事業所周辺美化活動



東洋マテリアル・テクノロジー
本社・大阪工場
淀川河川敷清掃活動

地球環境とのかかわり

地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

環境推進体制

グループ環境方針

東洋製罐グループは、2002年にグループ環境方針を制定しました。各社はこの基本理念に基づき事業活動を行っています。

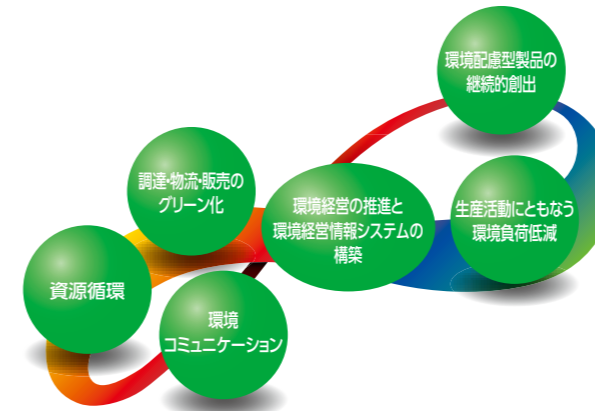
基本理念

東洋製罐グループ各社は、地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細やかな配慮を行いつつ、人類の生活文化の向上に貢献します。

グループ環境ビジョン

東洋製罐グループの環境経営実現のため、6項目からなるグループ環境ビジョンを2004年5月に策定しました。グループ各社は、調達、生産、流通、消費、廃棄・リサイクルと、サプライチェーン全体での「包みと地球環境の調和」を目指し、全員参加による環境経営の推進に取り組んでいます。

- I. 環境配慮型製品の継続的創出
- II. 生産活動にともなう環境負荷低減の推進
- III. 調達・物流・販売のグリーン化の推進
- IV. 資源循環の推進
- V. 環境コミュニケーションの推進
- VI. 環境経営の推進と環境経営情報システムの構築



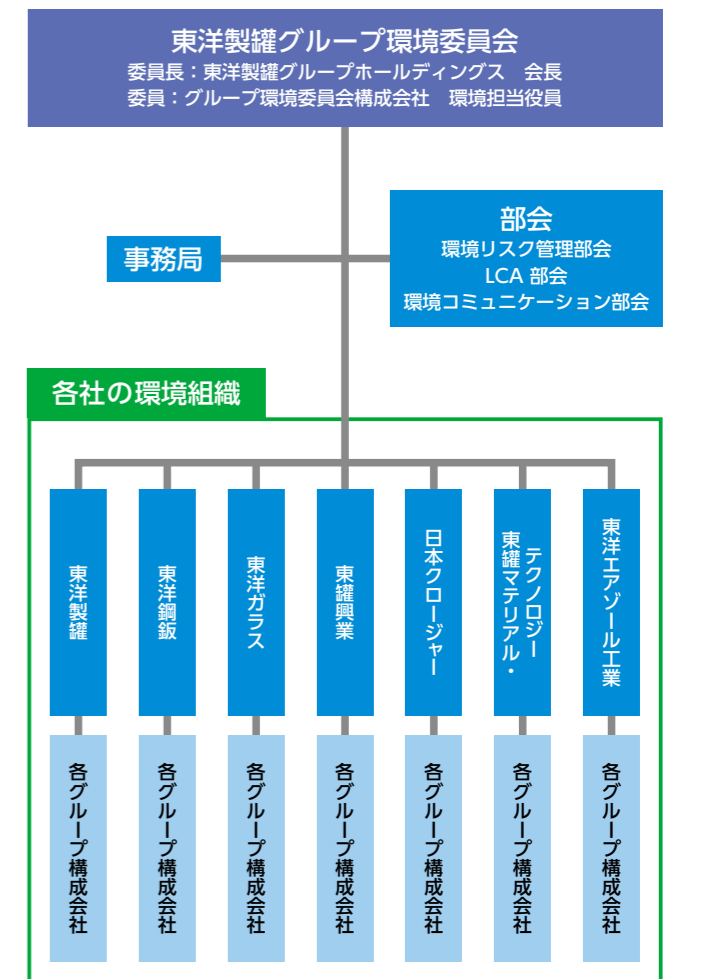
グループ環境管理体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングスの会長をトップに東洋製罐グループ環境委員会を組織し、グループ全体の環境経営を推進しています。

2013年4月のホールディングス体制移行にともない、環境管理体制を一部見直しました。

グループ全体の環境経営は、年2回の環境委員会にて審議、決定し、年6回の事務局連絡会にて、進捗管理を行っています。グループ各社は、グループ環境委員会での決定事項に基づき、その内容を自社で展開し、各社の環境管理活動を推進しています。

東洋製罐グループの環境管理体制



地球環境とのかかわり

地球環境とのかかわり

エコアクションプラン2015

東洋製罐グループでは、グループ環境ビジョンの実現に向け、具体的な環境目標と行動計画の中期目標であるエコアクションプランに基づき、グループ各社で目標達成に向けて取り組んでいます。

エコアクションプラン2015

東洋製罐グループでは、2006年より、5年間の中期目標である「エコアクションプラン」を策定し、グループの環境経営を推進しています。

2011年度に策定したエコアクションプラン2015からは、対象拠点を国内グループ会社主要拠点のみか

ら、国内グループ会社全拠点へと拡大し、よりグループ一体となって環境経営を推進しています。

2013年度 活動報告

2013年度の活動結果は、下表の通りです。9項目中、4項目が達成、5項目が未達成となりました。

エコアクションプラン2015 2013年度の活動結果

環境ビジョン	具体的項目と環境目標	2013年度			2015年度目標		
		目標	実績	評価			
事業活動にともなう環境負荷低減の推進	エネルギー消費量原単位の削減	6.7%削減	9.3%削減	省エネ活動の推進により、目標達成	★★★	8.5%削減	
	CO ₂ 排出量の削減(1990年度比)	19%削減	4%削減	P35参照	★	20%削減	
	物質投入量原単位の削減	2.5%削減	4.6%削減	軽量化等の取り組みにより、目標達成	★★★	3.3%削減	
	廃棄物削減とゼロエミッションの推進	①廃棄物物理立量の削減	47%削減	19%削減	P35参照	★	48%削減
		②ゼロエミッション拠点数の増加(再資源化率99%以上)	85拠点	126拠点	再資源化の推進により、目標達成	★★★	133拠点
	化学物質管理	①PRTR法対象化学物質の排出・移動量原単位の削減	10%削減	6%増加	各種素材の生産量の増加により、排出・移動量が増加	★	12%削減
②トルエン・キシレン等有機溶剤の排出移動量の削減		13%削減	2%増加	塗料・接着剤の水溶性・無溶剤化を推進しているが、生産量の増加により、排出・移動量が増加	★	16%削減	
調達・物流・販売のグリーン化の推進	物流工程でのCO ₂ 排出量原単位の削減	7%削減	10%削減	車両手配の効率化推進により、目標達成	★★★	9%削減	
資源循環の推進	マテリアルリサイクル率の向上	94%	93%	P35参照	★★	94%	

評価指標：★★★目標を達成できた ★★目標に対してわずかに未達成 ★取り組みが不十分
 対象：国内グループ会社全拠点
 基準年：2009年度

3Rの取り組み

東洋製罐グループでは、限りある資源を有効に活用するため、3Rの考え方に基づいて、容器の設計から使用後のリサイクルまで、循環型社会の構築に向けた取り組みを行っています。

3R

3Rとは、リデュース (Reduce：使う量を減らし不要となる物の発生量を減らす)、リユース (Reuse：繰り返し使う)、リサイクル (Recycle：もう一度資源として利用する)の頭文字をとったもので、ゴミの削減、循環型社会の構築に向けたキーワードです。

家庭から排出されるゴミの容積の50%、重量の25%を容器包装が占めていると言われていています。東洋製罐グループでは、容器包装を製造する事業者の責任として、容器包装の3Rに取り組んでいます。

リデュース 容器の軽量化

東洋製罐グループの事業会社各社では、リデュースの取り組みとして、容器の軽量化を推進しています。容器の厚みを薄くしたり、形状を工夫したりすることで、従来の機能を保持したまま材料の使用量を削減しています。天然資源やエネルギーの節約だけでなく、廃棄されるゴミの量の削減にもつながります。



リユース リターナブルボトル

東洋製罐グループのジャパンボトルドウォーターでは、飲食店や事業所、家庭向けのウォーターサーバー用リターナブルボトルおよびサーバーの製造販売を行っています。クリーンで美味しい水を、大容量ボトルでお届けし、空になったウォーターボトルは次回の配達時に回収しています。回収したボトルは厳しい衛生管理のもと検品・洗浄を行い、再使用しています。お客さまのもとでゴミが出ず、繰り返し使用することで、樹脂量の削減にもつながっています。



リターナブルボトル

リサイクル キャップリサイクルプロジェクト

大崎フォレストビルディングでは、一般社団法人日本キャップ協会、進栄化成株式会社と共同して使用済みのプラスチックキャップの資源化を推進しています。ビル内で回収されたプラスチックキャップは、日本キャップ協会を通じて進栄化成株式会社へ売却され、同社によって再生原料へと生まれ変わります。また、同協会が売却によって得た収益は社会に有益な活動を行っている団体に寄付することとしています。

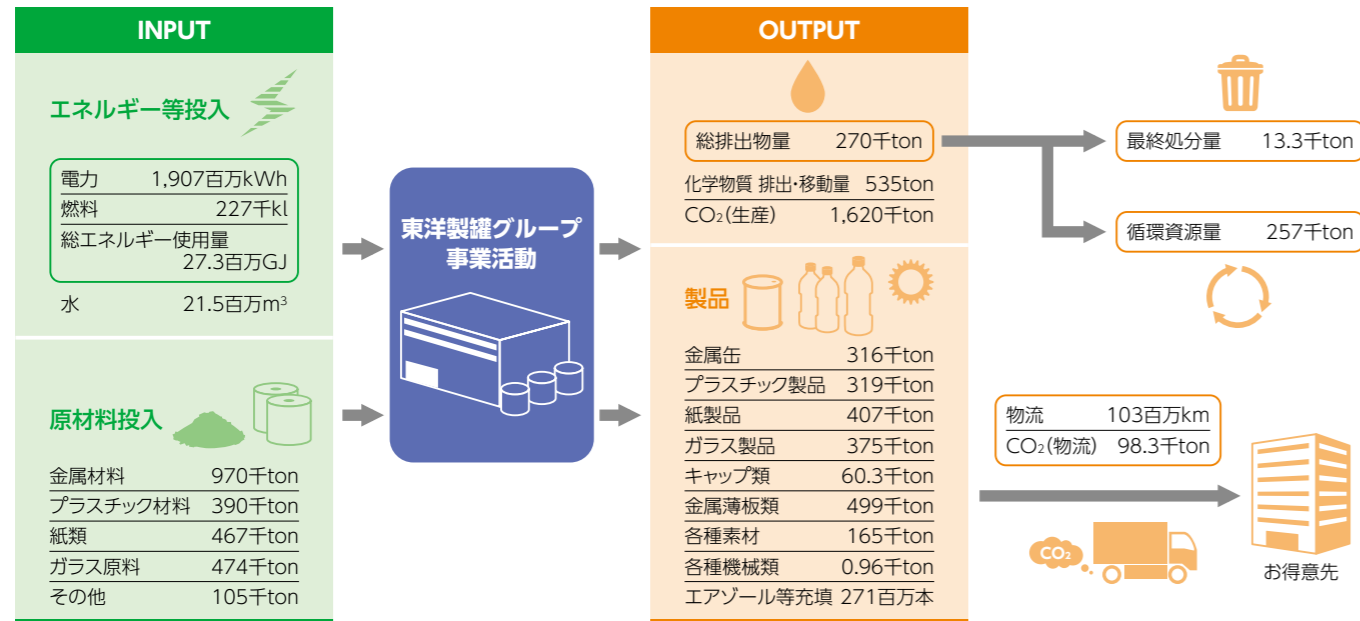


各階に設置しているキャップ回収ボックス

事業活動にともなう環境負荷

東洋製罐グループは、金属、プラスチック、紙、ガラスを原料として、缶、プラスチック容器、ガラスびん、紙容器、キャップ等の各種容器、および金属薄板、各種素材、機械類、エアゾール製品等を製造しています。その過程で、エネルギーを消費し、CO₂や廃棄物を排出しています。全体の物質収支を把握することで、グループ全体の環境負荷の低減に取り組んでいます。

東洋製罐グループ2013年度物質フロー



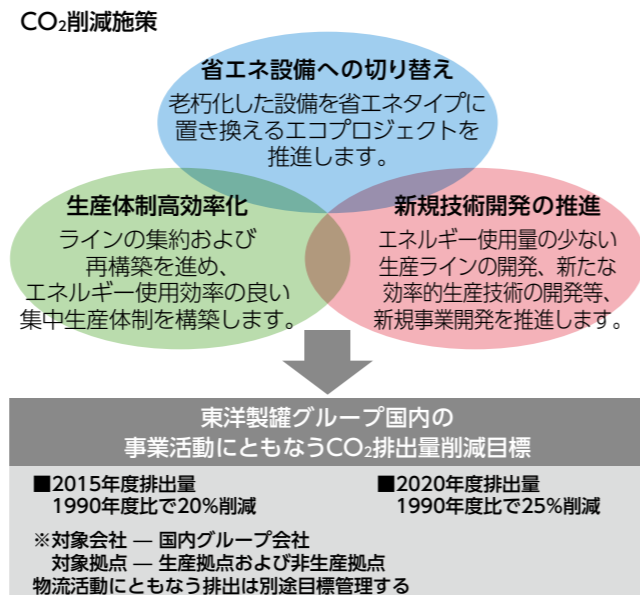
CO₂削減への取り組み

東洋製罐グループは、地球全体の課題である温暖化防止のために、グループ一体となってCO₂の削減に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地球温暖化防止に向けて

東洋製罐グループの各工場では、電力、燃料等のエネルギーを消費し、製品を製造しています。そのため、製造業者の重要な社会的責任として、省エネルギー、資源の有効利用等、様々な施策を実施し、CO₂の削減に取り組んでいます。

具体的目標として、エコアクションプラン2015の中でCO₂排出量の削減を活動項目に掲げて取り組んでいます。地球温暖化防止の取り組みについては、長期的な取り組みが必要なため、中期目標である2015年度の目標値だけでなく、中期経営計画の将来予測等を用い、2020年度の目標値も設定しています。非生産拠点を含むグループ国内全拠点を対象範囲とし、グループ一丸となって推進しています。



CO₂排出量の実績

2013年度の東洋製罐グループのCO₂排出量は、1,620千tonと前年度に比べて151千tonの増加となり、2013年度の目標1990年度比19%削減は達成できませんでした。プラスチック製品の生産量の増加や、電力会社の原子力発電所の停止にともなう火力発電比率の増加によって、電力のCO₂排出原単位が増加したことが影響しました。

各事業所では、生産体制の再構築、計画的な高効率設備への設備更新を実施しているほか、改善提案や他

廃棄物削減への取り組み

東洋製罐グループでは、廃棄物の削減、再資源化の推進に積極的に取り組み、限りある地球資源の有効活用に努めています。

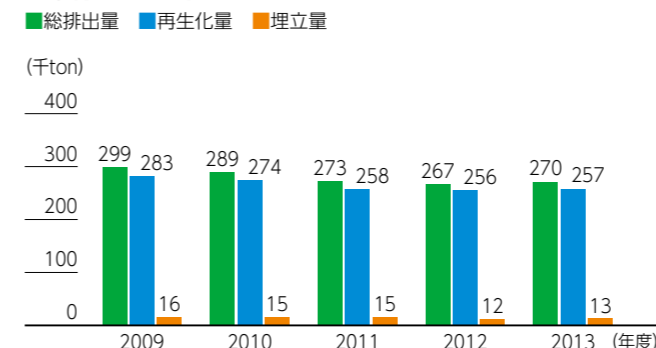
廃棄物の削減

東洋製罐グループでは、限りある地球資源を有効に活用し、廃棄物の削減に努めるとともに、やむを得ず廃棄となる排出物については、再資源化を積極的に推進し、グループ各拠点でのゼロエミッションの達成に取り組んでいます。2013年度は、全187拠点中、126拠点でゼロエミッションを達成しました。

廃棄物削減の実績

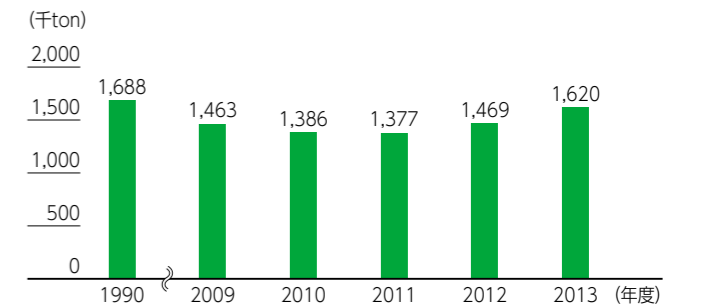
2013年度の有価物を含めた総排出量は、前年度に比べて3.7千ton増加し、270千tonとなりました。そのうち、総排出量の95.1%にあたる257千tonがリサイクルされました。リサイクルされずに埋立処理(直接埋立処理あるいは単純焼却後に埋立処理)された量は、前年度に比べて1.6千ton増加し、13千tonとなりました。さらなる埋立量の削減のため、分別の徹底や、廃棄物処理業者と協力しながらリサイクル手法の検討を推進しています。

廃棄物排出量の推移



事業所の取り組みの水平展開により、地道な改善を積み重ねることで、さらなる削減に努めています。

CO₂排出量の推移



資源循環の推進

東洋製罐グループでは、サーマルリサイクル*1処理を行っている廃棄物についても、リサイクルの質的改善を目指し、マテリアルリサイクル*2への転換に向けた活動を推進しています。

- *1 **サーマルリサイクル**
ゴミを燃やし、その際に発生する熱をエネルギーとして利用すること。
- *2 **マテリアルリサイクル**
使用済み製品や生産工程から出るゴミ等を回収し、利用しやすいように処理して、新しい製品の材料もしくは原料として使うこと。

2013年度のマテリアルリサイクル率(廃棄物総排出量に対するマテリアルリサイクルされた量の割合)は、前年の94.3%から1.2ポイント低下し、93.1%となりました。埋立量の削減同様に、分別の徹底や、処理手法の検討等により、より質の高いリサイクルを目指しています。

リサイクル率の推移

